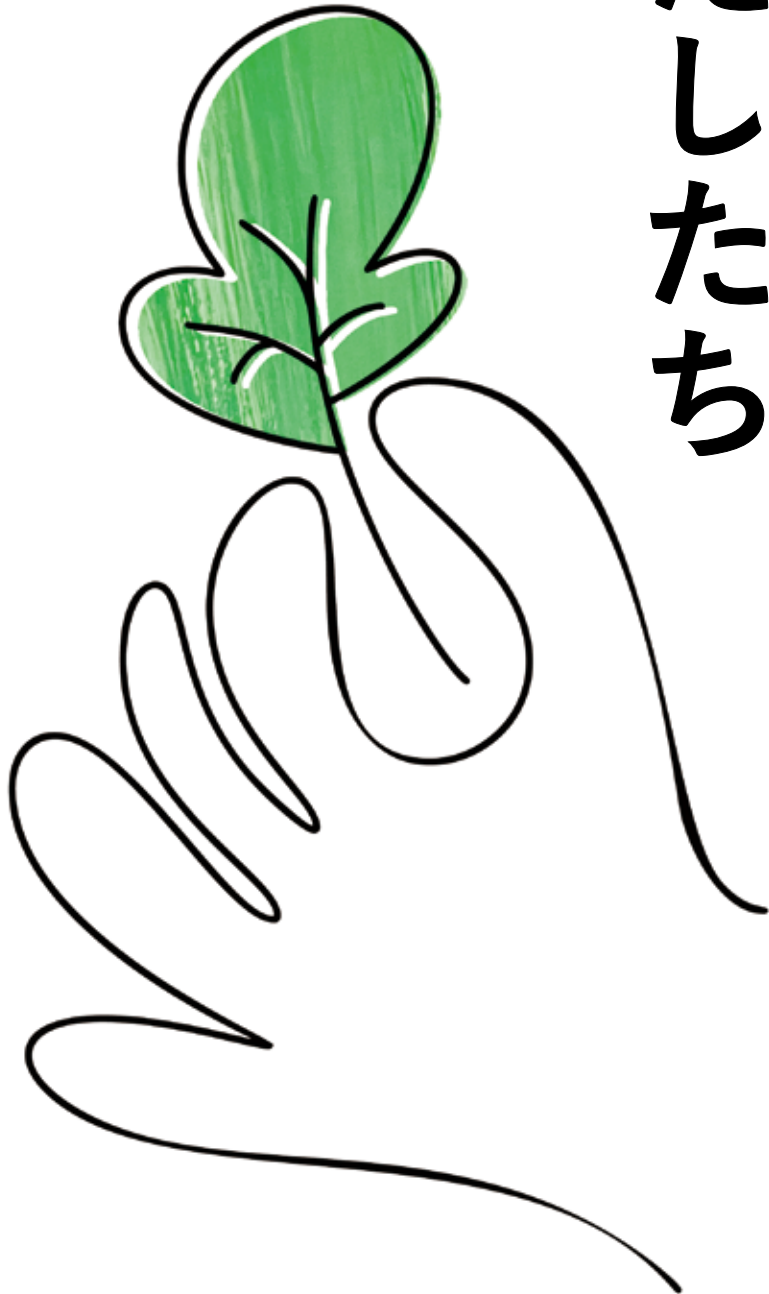


特集

災間さいかんを生きる わたしたち



1995年の阪神・淡路大震災以降、大きな地震、大雨や台風被害、そして感染症の蔓延など、わたしたちは多くの災害を経験してきました。災害頻発によって、被災地の復旧や復興が成される前に、新たな災害に見舞われるという状況が続いています。

社会学者の仁平典宏にへいのりひろ氏はこれを「災間さいかん」という概念で提唱しました。

「災間」を生きるわたしたちにできることは何か。誌面を通して考えてみます。

「災間」とは、東日本大震災の後に、社会学者の仁平典宏氏が提唱した概念で、東日本大震災の後の社会を「災後」とみるのではなく、次に来たる大災害との間である「災間」と考え、災害によってもっとも困難な立場におかれる人々をどのように支えることが可能かという視点に立って、社会全体を見直し、つくり変えようという呼びかけである。（日本災害復興学会 2022年度学会大会 分科会1 宮本匠氏の報告より）



災害に強い病院が地域を守る

岡山医療生協 岡山協立病院 防災対策委員会

防災対策委員会は、病院内の防火管理や防災対策の推進のために設けられた委員会です。岡山医療生協では、「地域にとつて頼れる病院に」と設置されました。院長をはじめ、医師・看護師長・施設管理・災害支援ナース^{*}・感染制御部など、発災時に直接関係するのみならず防災に関心が高いメンバーで構成しています。

毎月開催する委員会では、院内における火災、地震その他の災害の予防と人命の安全、被害の軽減を図るため、防災対策に関するすべてのことを話し合っています。

^{*}災害支援ナース…被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めることも、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う



トリアージポスト設置訓練

被災した患者さんに対して、治療優先度を決めて適切な対応するための訓練の様子。軽症の患者には、事務職や栄養科などの職員も対応するので普段からの練習が大切になる。

急変患者対応シミュレーション

「売店で人が倒れた」と想定し、医師や看護師が駆けつけ救命処置をして、担架で救急室へ。いかに短時間で対応できるか訓練する。



夜間を想定した火災避難訓練

参加できる職員が固定してしまわないように、土曜日から平日に変更して実施した。

《防災対策委員会がとりくむこと》

◆ 災害対策マニュアルの整備・更新

自然災害・火災・感染症などに対応したマニュアルづくり
および事業継続計画（BCP）の作成・見直し

◆ 災害を想定した定期的な訓練

院内火災を想定した避難訓練
（夜間想定を含む 年2回）
防災訓練
災害時を想定したトリアージポスト設置訓練
病院内での急変患者対応シミュレーション など

◆ 災害対策用備品の管理、定期的な見直し

◆ 職員への情報発信

他施設での研修など
情報共有ツールの活用
資格取得のための研修受講



防災対策委員会
夜間を想定した火災避難訓練のリハーサル

出火もとを決め、避難経路などを確認する。

くわんがくんがきのようじやんじ

防災対策委員会
経営企画課 副主任 梶川勝矢さん



防災対策委員会できりくんでいることは多岐に渡っています（上記）。

病院では様々な視点で、防災訓練をおこないますが、委員会では訓練のためのリハールやシナリオづくりをします。

また、災害対策マニュアルも、自然災害や火災にとどまらず、パンデミック対応や

サイバー攻撃についても作成が求められるようになりました。そのため病院内の専門部署の協力がますます必要になっています。

2024年度に力を入れたのは「安否確認サービス」の導入です。これは、災害時の職員の安否確認や緊急招集などをおこなうアプリです。連絡網による電話連絡は時間がかかりますが、これを使えば一斉に情報発信が可能に。普段の職員のコミュニケーションツールとしても使用できます。

とりくみにおいて大切にしているのは、「よごと」になってしまわないこと。より多くの職員を巻き込みながら、いざというときに動ける体制をつくりたい。そうすることで岡山協立病院が、災害時にも地域のみなさんのよりどころになれると考えています。自分自身も防災の資格をとって専門知識を高めていきたいです。

岡山協立病院 高度治療室病棟 看護師
災害支援ナース 山中さん

COVID-19 病棟に応援に行ったときから、私にできることを考えるようになり、師長や看護部長からのすすめもあり、研修を受けて災害支援ナースとして登録しました。災害支援ナースは、2024年に新興感染症を含めたプログラムへ変更され、新興感染症対応のほかクリティカルケア領域へと課題は幅広くなりました。

まだ災害支援ナースとして派遣はないですが、被災地の方の健康維持や感染症拡大を予防するために、そのときその環境で実施可能な看護を考え、継続した看護をおこない、災害関連死の減少をめざしたいです。日々の看護から災害時にどう対応できるかを考え、実践していきたいと思っています。

※クリティカルケア：疾病や外傷などで危機的な状況に陥っている重症患者に対するケア

防災対策委員より 様々な専門分野のメンバーが 知識と経験をもちよって



後列左から 一瀬さん、藤田さん、平井さん、中島さん
前列左から 中島さん、梶川さん、山中さん



避難訓練の打合せをする

岡山協立病院診療部総合診療科 部長 一瀬さん

在宅患者の災害予防対策の作成や、市役所と共同で要援護者の方のBCP作成をおこなっていた経験があり、2004年から活動しています。そうした経験を活かしているのも、やりがいがあります。

岡山医療生協本部 経理課 中島さん

前職の保険会社で、火事の現場、台風など保険の査定をしていました。そうした経験を活かしたいと委員をしています。その分野の専門の方がいて、様々な方向から意見が出せるのが強みだと思います。



岡山協立病院中材手術室・DSA 師長 石井さん

防災訓練したときには「防災って大事。もっと学びたい」という気持ちになりますが、それをどう継続させるかが課題です。日々の業務の忙しさで、防災意識が薄れていきます。それを何とか継続させていきたいと、コツコツ研修・訓練を続けています。